

第4学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 隙間時間に小説などの物語の読書に取り組む児童が増えた。
○ 自分の考えを整理して、相手に自分の考えを伝えられるようになった。
○ 相手の考えを聞いて、そのよさや自分の考えとの違いに気付く児童が増えた。
- 課題** ▼ 主語・述語、修飾語の文法的な理解に差がある。
▼ 語彙力に個人差が見られる。インプットとアウトプットの経験を繰り返して、語彙力を高めていく。
▼ 文章を読んでも理解できない児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 話を終わりまで、要点を捉えながら集中して聞く力
- ◇ 伝える相手を意識して、話したり聞いたり、文章を書いたり読んだりする力
- ◇ 自分と他者の考えの違いや良さに気付く力
- ◇ 文章から読み取ったことを、音読などを通して表現する力

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 短作文のテーマを学習や生活とリンクさせ、学んだことを活かそうとする態度を育む。
- 学習計画を立てて見通しを持って取り組ませ、主体的な読みの力や他者との協調性を育む。

言語活動の工夫

- これまでの学習を十分に生かして取り組めるような言語活動を設定する。
- 書き出しや話し始めの言葉を例示し、他者の考えと比べて書いたり話したりする力を育む。

ICT活用の工夫

- 導入時などに画像を拡大して分かりやすく提示し、興味関心を高める。
- 考えを共有したり比較したりする際や、自身の学びをより深めたりする際にタブレットを活用し、共同的・探究的な学習に取り組む力を育む。

課題解決力育成の工夫

- 学校図書館やタブレットを活用し、教科書の読みの学習を自身の生活に活かそうとする姿勢を養う。

達成目標

- 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、人との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。